

四天王寺夕陽丘保育園

新型コロナウイルス感染症の5類移行とともに感染対策が緩和され、これまでの規制が徐々に解除され、園児、保護者に満足感のある園行事が実施することができました。

行事は日常の保育の延長線であることを意識し、子どもたちの主体性を重視した内容としました。

園庭開放を主に行う地域支援では、実施日を増やすも様々な感染症発生で中止せざるを得ないこともあり、施設機能を活かした内容の充実は次年度の課題となりました。

～事業活動報告～

(1) 乳幼児保育 ～「わたし・ぼく困ってる」と言える保育～

- ・家庭連携し共通理解のもと個々にあった対応を心がけて保育を実施しました。
- ・改定した全体の計画の見直しは、未実施で次年度に持ち越すこととなりました。
- ・異年齢合同の場をもち、育ち合う時間が増えました。
- ・支援を必要とする園児が安心して自分を表出できるよう職員配置と職員間で情報共有を図りました。また、家庭及び関係機関と連携を行うことができました。

(2) 地域支援活動 ～「いっしょにあそぼう」の姿勢で地域に開かれた保育園～

- ・園庭開放時は、回数は限られ感染対策を重視しなければならないことが多くありました。
- ・地域への情報配信は次年度への課題としました。

(3) 人財育成 ～互いに学びあえる風通しの良い職場環境～

- ・4つのテーマ（事故予防・災害・特別支援保育・人権）に基づく委員会を立ち上げ年間通して各テーマにそって、課題意識をもち意見交換と改善を行いました。
- ・相談支援技術の向上は次年度の課題としました。

(4) リスク対応・環境整備

～「やってみたい」「やってみよう」と思える・言える・やれる環境設定～

- ・2歳児以上の異年齢交流の保育環境を日常的に設定することにより年齢の壁を越えた育ち合いの場が生まれ、「やってみたい」「やってみよう」が活性化しました。
- ・事故予防マニュアル改定を委員会活動の中で取組み次年度も継続します。
- ・老朽化に伴う保育室の環境設備、空調、調理機器をはじめ修繕、改修の実施を計画的に行いました。

～改善活動～

(1) 人権擁護のセルフチェック、保育の自己評価を行い、意識の向上に努めました。

(2) ノンコンタクトタイムを確保することで間接業務を行う時間を設け、間接業務負担の軽減と働きやすい職場作りにつなぎました。